様式３

審議（会議）結果

審議会等名称

第８回神奈川県県土整備局指定管理者選定審査委員会　都市公園部会

第３回神奈川県立都市公園及びスポーツ施設指定管理者評価委員会（合同開催）

開催日時

令和３年７月 13 日（火）14：00～17：00

開催場所

神奈川県庁新庁舎 12 階県土整備大会議室

出席者【委員長・副委員長】

浦田　啓充【委員長】、飯島　健太郎、岡本　由美子、青木　利太、川島　裕子、日比野　幹生【副委員長】、岡本　悟、小野寺　斉

次回開催予定日

令和３年７月 16 日（神奈川県県土整備局指定管理者選定審査委員会　都市公園部会）

令和３年８月３日（神奈川県立都市公園及びスポーツ施設指定管理者評価委員会）

所属名、担当者名

（都市公園に関して）

都市公園課　計画グループ　中島

電話番号　045-210-6221（直通）

ファックス番号　045-210-8883

（スポーツ施設に関して）

スポーツ課　施設グループ　中村

電話番号　045-285-0795（直通）

ファックス番号　045-662-5557

掲載形式

プレゼンテーション及びヒアリングの部分については議事録、選定評価の部分については議事概要

議事概要とした理由

本会議は、面接審査のうち、提案に係るプレゼンテーションと質疑応答については、「公開」とし、そ

の後の「評価」を行う「協議」の部分については、指定管理者の募集・選定等に支障があると考えられることから、非公開により運営されたものである。

議事録を掲載することにより同様に指定管理者の選定に支障があると判断されることから、議事概要とした。

なお、第９回神奈川県県土整備局指定管理者選定審査委員会　都市公園部会についても、同様の扱いとすることとした。

審議（会議）経過

１　評価の進め方について

令和３年４月募集分の評価の進め方について事務局から説明があった。

２　会議の公開・非公開について

本会議の面接審査のうち、提案に係るプレゼンテーションと質疑応答の後の「評価」を行う「協議」の部分については、指定管理者の募集・選定等に支障があると考えられることから、附属機関等の設置及び会議公開等運営に関する要綱第６条の規定に基づき提案に係るプレゼンテーションと質疑応答を除き非公開とすることを決定した。

また、今回の委員会と同様の内容で開催する第９回神奈川県県土整備局指定管理者選定審査委員会　都市公園部会についても、同様の扱いとすることを決定した。

３　応募団体によるプレゼンテーション及びヒアリングについて

（１）　秦野戸川公園・山岳ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ①　神奈川県公園協会・小田急電鉄共同事業体

（委員）　熱海で土石流災害が発生した。秦野戸川公園には水無川という河川がある。普段はそれほど水量がないが、増水し氾濫することもあると思う。氾濫しそうなポイントは把握しているのか。

また、山があるので土石流など崩れやすい斜面についても、ポイントを把握しているのか。

（応募団体）　水無川という川が流れているが、気象情報により大雨等が予想される場合は、園内の放送設備により、公園利用者に注意を促すようにする。増水に対しては、ロープを張って立ち入り禁止の措置を行い、事故防止に努めている。

また、公園内には急傾斜の部分はないが、点検をして、危険な箇所は承知している。

（委員）　山の斜面についても把握しているか。

（応募団体）　山の斜面も点検をして危険な箇所を承知している。

（委員）　今までに斜面が崩れたということはあったのか。

（応募団体）　今回の７月３日の豪雨で、園路わきが少し崩れたが、危険な状態にはなっていない。現在シートを張って、土木事務所が復旧作業中である。

（委員）　水遊びなど子どもの利用者も多いと思うが、夏における子どもの熱中症対策はどうか。また、スポーツクライミングの安全対策はどうなっているか。小さい子どもが登ってしまうことはないか。

（応募団体）　グラウンド利用者に対しては、熱中症予防の警戒アラートにより利用者に利用中止を呼びかける。通常の公園利用者に対しては、水・タオル・保冷材のセットを事務所に配置している。また、適宜熱中症への注意を園内放送で呼びかけている。
　クライミングウォールについては、高温・多湿の時には、利用者に注意を呼び掛けている。また大きめの扇風機を配置し、順番待ちをしている人へ風をあてるなどの対策をとっている。

（委員）　クライミングウォールは２人１組でのぼることもあると思うが、十分な数の指導員は配置しているのか。

（応募団体）　山岳スポーツセンターは、事前に安全講習を受けないと利用できないようにしている。その中で、登り方だけでなく、下り方も指導している。また、日々の点検でウォールや着地地点の点検を行っている。
　また、山岳スポーツセンター内にモニターを設置し、常時職員がウォールの状況を監視するようにしている。

（委員）　収支計画書の中で、宿直業務の委託という項目がある。山岳スポーツセンターには宿泊施設があるが、宿泊者への夜間の対応も行うということか。

（応募団体）　宿泊者があるときの対応は、専門のNPO団体に業務を委託している。団体に宿直業務の経験者があり、非常時の対応等を行っている。

（委員）　今まで宿直の職員がいて役に立ったケースはあるのか。

（応募団体）　災害が起こった時の宿泊事例はないが、万が一の時には、連絡体制がとれるようにはしている。

（委員）　山岳クライミングウォールの利用促進について詳しく教えてほしい。

（応募団体）　オリンピック種目にクライミングウォールが決まってからは、コロナの影響を除けば、順調に利用者が増加してきている。さらに競技人口の裾野を広げるために、親子のクライミング教室や障害者体験会など初心者向けの企画を増やしていきたいと思っている。

（委員）　県の施策との関連は非常に大事だと思う。未病の改善について提案書で触れられている。秦野市が森林セラピーコースに指定されており、その観点からのウォーキングイベントの開催が提案されている。森林セラピーということで、自分が健康になっているんだという実感・フィードバックが必要ではないか。イベントをただ開催するだけでなく、バイタルチェックなどそういったものを含む内容になっているのか。

（応募団体）　秦野市から風のつり橋コースということで市から認定を受けている。また、今年度から協議会でモニターイベントがあり、そこに協力していくつもりである。他のコースで健康状態のフィードバックを行っている実績があり、そこに協力していくということである。

（委員）　この公園は日常の健康づくりよりも、週末利用の健康づくりという側面が強いと思う。そういった観点からのプログラムというのは非常に大事だと思う。先行の団体との関わりがもう少し見えてくるとよいと思う。

（委員）　年間を通して花があふれる公園づくりという新たな魅力を創出するということでその点はよい提案だと思う。丹沢の花と自然ということで、丹沢ならではの取組というものはあるのか。

（応募団体）　公園自体が丹沢のすそ野にあり、丹沢一帯が一望できるようになっている。そこに来てもらえれば、丹沢の自然に触れることができるので、特に丹沢だからこうだという取組みは考えていない。

（委員）　応募要項では、スポーツクライミングコーチ２の取得者を配置するよう記載しているが、提案書には令和４年度に取得見込みとある。これは現在は所持者がいないということか。

（応募団体）　現在、スポーツクライミングコーチ２の所持者はいない。今年７月に行われる講習会に５名の職員が申込みをしている。昨年度受講させたかったが、コロナの関係で講習会が開催されないということで今回となった。証明書の交付が令和４年度になってしまうということで、このような記載になっている。

（委員）　そうすると、令和４年度には確実に証明書が交付されるという理解でよいか。

（応募団体）　その前提で計画をしている。

（委員）　防災訓練について、具体的な取組みや頻度を教えてほしい。

（応募団体）　現在年１回の防災訓練を実施している。地元自治会と連携して、公園の施設や使用方法を見てもらっている。特にかまど型ベンチの使用方法などについて、自治会の防災担当者に見てもらっている。
　また、山岳スポーツセンターは宿泊施設なので年２回の消防訓練が義務付けられているので、その訓練を実施している。また、夜間の事故や災害に備えて委託事業者との訓練も行っている。

（２）　秦野戸川公園・山岳ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ②　横浜緑地株式会社

（委員）　山岳スポーツセンターを活かすとの提案があった。山岳クライミング競技を振興するに当たっては、競技団体との連携が非常に大切になると思うが、そのあたりはどのように考えているのか。

（応募団体）　山岳スポーツ連盟、登山愛好家などの様々な連携先が考えられる。現在、協力している団体の他に、社会人や大学などの団体に情報発信をしていきたいと考えている。

（委員）　現在連携している団体とはどこか。

（応募団体）　日本山岳スポーツクライミング協会、神奈川県山岳連盟とこれから連携していく。

（委員）　年間70万人の目標があるが、道路の渋滞が目立っている。そのあたりの対策と公共交通機関利用促進への方策はあるか。また、川の増水による危険や急な斜面などといった危険箇所について把握しているのか。

（応募団体）　登山利用者が多い時期には駐車場の入場待ちで渋滞ができている。多目的広場Ａの臨時駐車場としての営業時間を早めたいと考えている。また、公共交通機関は渋沢駅からのバスの利用が一般的であるので、利用者増加のために、バスの増便を働き掛けていきたい。
　また、防災の点だが、秦野市のハザードマップによれば公園自体はリスクはそれほど高くはないが、上流部分に土砂の急傾斜地としてのリスクが高いとされている。また、下流域には浸水のリスクが指摘されている。そういったことを認識した上で、危険情報の発信や非常時には利用者の利用を制限する等の安全対策を講じていきたい。
　そのほか、森の自然観察ゾーンについては急傾斜地なっているので、パトロールを強化していきたい。増水時については、河川の通行止めやパトロールの強化をする、園内放送については、耳の不自由な方向けに掲示やプラカードによる情報提供をしていきたい。

（委員）　非常時に職員が、早め早めに対策をとっていくということか。

（応募団体）　早め早めにパトロールしていく。

（委員）　プレゼンの中で、芝生の再生とあるが、どこのゾーンを指すのか。

（応募団体）　多目的グラウンドＡである。

（委員）　現状の芝生の何が問題で、芝生を再生すると利用者にどのようなメリットがあるのか。

（応募団体）　一度に全面的に芝生化することは困難であることから、指定管理期間の５年間で５回に分けて芝生化する計画である。スポーツ利用をしながらの芝生化であるので、スポーツ利用との利用調整を図りながら芝生化を進めていきたい。特に週末は小学生のサッカーチームの利用が多い。
　また、現状芝生はダスト広場のようになっているので、親子連れが来ることは少ない。原っぱのような芝生にすることで、野遊びのような新しい利用が増えると考えている。そういった空間をつくっていきたい。

（委員）　サッカーをやるうえではむしろ今の芝生の方が合っていると思うが、養生期間が長くなるなどで利用が制限されることはないのか。

（応募団体）　区画を分けて芝生の再生をしていきたい。現状の利用について妨げることのないようにしていきたい。

（委員）　現状の利用にも対応しながら芝生の再生を進めていくノウハウを持っているという理

解でいいか。

（応募団体）　なかなか難しい管理になると思うが、現状の利用と両立できる、秦野の環境にあった芝生を選んで管理していきたい。また、我々だけでなく地元の方とも共同して芝生を管理していきたい。

（委員）　自主事業でバーベキュー場に加えてビギナーズキャンプ場を行うとある。場所が河原ということで水の事故が危惧される。その点への対策はどうか。
　また、山岳スポーツセンターやキャンプ場を含めて宿泊者がいるということになるが、夜間の警備について収支計画上明確でないので、そのあたりも教えてほしい。

（応募団体）　ビギナーズキャンプの場所は河原だが、宿泊場所は高台にあるバーベキュー場を想定しているので、宿泊時の増水時に対応できる場所を選んで進めたい。水辺の事故については、立ち入り禁止区域の明確化や日頃のパトロールも強化したい。
　夜間警備については、指定管理者の宿直だけでなく自主事業でも宿直を置くことを計画している。そうすることで、より安全に向けたパトロールを進めたい。

（委員）　スポーツ施設ということで夜間に限らず事故も他の公園と比べて特殊なものとなると思う。今まで山岳スポーツセンターやクライミングウォールといった類似施設の管理実績はあるのか。

（応募団体）　山岳スポーツ施設の管理運営実績はない。宿泊施設は業務委託での経験はある。具体的には横浜市の上郷森の家という小学生向けの宿泊施設兼バーベキュー場の運営実績がある。クライミングウォールを配置している施設の運営はないが、開成町のスポーツ公園では、出張の山岳スポーツの体験イベントを運営したことはある。

（委員）　施設のPRで各SNSを活用したPRの実施、公式アカウントの開設とある。その中で各専門分野に精通したインフルエンサーと連携して情報を拡散するという記載があるが、詳しく教えてほしい。

（応募団体）　SNSについては、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターを使用する予定である。現在観音崎公園でのパークPFI事業でも行っているが、インフルエンサーを使って施設のアピールや宣伝を行うことを考えている。年代別にターゲットを絞って集客の増加を図っていきたい。

（委員）　専門分野のインフルエンサーとは何か。

（応募団体）　たとえば一般的な知名度はあまりないが、キャンプといった野外活動に長けていてフォロワーが多い方がいる。そういった方に写真付きで施設のアピールをしてもらうと、集客につながると考えている。そういった方と連携していきたいと考えている。
　提案書のp38でR.projectという団体と連携して合宿などの情報を発信していきたい。影響力のある団体なので皆さんには興味をもって頂けると考えている。

（委員）　危急時対応について、インストラクターなど養成・訓練といった話があったが、予防という観点ではよいが、いざ事故が起きた時の対応、たとえば救命に関する資格を持った職員の配置といったことは考えているのか。

（応募団体）　救急救命講習を修了した職員の配置を予定している。また現在も行っているが、消防と救急救命の連絡訓練を行っている。すべての職員が同じ対応が行えるよう日頃から訓練をしている。

（委員）　事業計画書のp74からp75に現地の体制の記載がある。山岳スポーツセンターの体制は二人で土日は４人となっている。準夜間スタッフは夜間の対応をすると思うが、それ以外の方は昼間の対応をすることになると思う。そうすると昼間は受付・清掃スタッフ１名になるということか。

（応募団体）　そのとおりである。

（委員）　応募要項でスポーツクライミングコーチ２以上のスタッフを配置することになっているが、その人の配置はどうなっているか。

（応募団体）　業務委託で資格を持った職員を配置する予定である。

（委員）　河川敷のキャンプにはそれなりの安全対策が必要となる。そのあたりの体制はどう考えているのか。雨が降ってなくても、上流で雨が降れば増水するということもありえる。危険を察知して対応できる体制になっているのか。

（応募団体）　気象情報を１時間単位などでしっかりと確認する。局所的な雨は予報だけでなく、しっかり現地で確認して、避難誘導できる体制をとっていく。
　また、上流にキャンプ場がありそちらとの連携を行い安全対策を行っていきたい。

（委員）　現場の所長は公園での勤務経験や公園管理運営士などの資格を持っているのか。

（応募団体）　所長勤務予定の者が公園勤務３年以上で公園管理運営士の資格を有している。また、養成普及事業コーチを有するものを業務委託により配置する。

（委員）　山岳スポーツセンターの宿直は業務委託とするとの記載があり、収支計画表を見ると、それらしい項目がないのだが、保守管理（夜間警備）のことか。

（応募団体）　両施設一体で考えており、収支計画表の保守管理に計上している。

（３）　相模湖公園・相模湖漕艇場　相模湖観光協会・神奈川県ボート協会グループ
（委員）　ボート競技人口が減少しているとのことだが、その要因と、増加させるための手段はあるのか。流木についての対策はどうか。

（応募団体）　近年は、人口減少に伴い、どの競技もスポーツ人口が減少している。漕艇場は高校・大学の部活動での利用が中心となっている。増加の手段としては、市民向けのボート教室や中学生向けのボート教室を行い、普及啓発を図っている。また障害者団体とも連携している。
　近年大雨が多く、上流の山梨県側から多くの流木が相模湖に流れてくる。相模湖は企業庁の管理だが、企業庁だけでは流木を処理しきれないので、公園とボート業者と協力して流木を集めて企業庁の流木処理を行う場所まで運ぶなど連携して対策をしている。

（委員）　郊外の県立都市公園ではマイカー利用が多いことがある。相模湖公園は駅から徒歩圏にあるが、公共交通利用の促進策はあるのか。

（応募団体）　相模湖公園は交通の便が良い。中央線や中央高速道、近年では圏央道が出来た。従来は山梨県側からの利用が多かったが、最近埼玉や小田原方面からの利用者も見られるようになった。相模原市・相模原市観光協会などと連携して、誘客に努めている。看板などを使ってPRをしている。

（委員）　マイカー難民に対する対策があれば聞きたかった。

（委員）　夜間は機械警備（委託）を行うとあるが、その内容は何か。夜間の水辺の事故対策はあるのか。

（応募団体）　機械警備は相模湖漕艇場の施設のみである。公園については、GW、夏休み、お盆、冬休みなどに若年層の利用が多いので、警備員を２名配置し警備を行っている。

（委員）　相模湖公園は駐車場の上がコンクリートになっている。水がたまったりしないのか。芝生にするとか予定はあるのか。
　また、駐車場の横の道路に青いダムの施設のようなものがあるが、なんの説明もない。ボートに興味がない一般利用者に対する説明看板など学びとしての利用促進の面で工夫するつもりはないか　　。

（応募団体）　駐車場の上部だが、芝生広場になっている。その下はボート置き場になっている。その横に噴水広場があって、そこがほとんどコンクリートになっている。コンクリートの部分については、相模湖ダムの古いタービンを交換した際に、保存しておくためにおいてある。目立ちにくいが説明のための銘板も設置してある。その周辺ではボート大会の表彰式が行われたり、子どもたちが遊具を持ち込んで遊ぶなど多様な使われ方をされており、いろいろな要望をもらっているが、芝生化の予定はない。

（委員）　利用者の目標はコロナ前に比べて低い目標となっているがその理由は何か。コロナ時代を見越して新たな取組みを行う予定はあるか。

（応募団体）　昨年度は例年の花火大会やオリンピック関係のイベントが軒並み中止となったため、利用者が減少となった。現在のところ人を集める取組みを行うこと自体が難しくなっており、

現段階では特に新たな取組等は企画していない。

３　協議について

２の内容をもとに応募団体の提案等の評価を決定するための協議を行った。

以上